

熊本縣のシヤム糯稻についての調査

江 藤 慶 一

熊本縣立農業試験場

Eto, K. Investigation of Siamese glutinous rice plant in Kumamoto-Prefecture.

これは熊本縣八代郡和歌島村に栽培されたシヤム糯稻の調査である。

栽培の概要 5月10日に墨草跡出床に播種し、同30日畑に無肥料のまゝ一回仮植し、7月10日60日苗を以て植付けした。本田は、硫安4貫過石2貫を全層施肥后畦巾2尺5寸の畦立をして、條間9寸、株間5寸の2條1本植えて、坪当57.6株である。追肥は行わない。

特性の概要 印度稻の特徴を顯著に示し、長程少けつで籾は大きく紫色で非常に脱粒し易い。生育は旺盛で葉は粗剛、稈は太く、出穂は農林27号より早く若干病害を受けた。螟蟲の被害は内地稻より多い。葉いもち病は点々と病斑を認める程度であつたが穂首いもち病には弱く、農林18号より多く発生した。一穂の着粒数は多いが又不稔粒が多い。玄米は偏平長大で碎け易い。現在の籾摺機の網は通らない。一升は330匁で検査規準から見ると屑米となる。

調査したものは3本の穂から種子をとつたもので、この間には稈色の差は認められなかつたが、次代では紫色から黄色迄分離して、その黄色のもの玄米は内地稻に似て居る。

第 1 表

	出穂始	穂揃日数	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数	1穂穂 実粒数
シヤム糯稻	9月2日	15日	150	25.3	6.2	124.5

(60本平均)

第 2 表

稈色	穂長 (cm)	1穂着 粒数	稈実 粒数	1穂重 (gr)	玄米 千粒重 (gr)
黄	25.5	193.1	154.2	5.5	30.8
紫	27.3	145.7	90.5	3.6	33.8

(20本平均)